

国指定 天然記念物 麻生原の キンモクセイ



●日本一の大きさといわれる「麻生原のキンモクセイ」が、10月上旬に薄黄色の上品な花を咲かせ、やさしく甘い香りを周囲に漂わす。●「キンモクセイ」を訪れた見物客を、心を込めたお茶うけで接待する「麻生原キンモクセイ保存会」の皆さん。キンモクセイの花と接待を楽しむに、遠くから訪れる見物客も多い。



本町が誇る秋の風物詩 キンモクセイが満開

国指定天然記念物で、本町の代表的な観光名所の一つである「麻生原のキンモクセイ」が、10月上旬に開花し、薄黄色の上品でかれんな花と独特のやさしく甘い香りが訪れた人々を楽しませました。

このキンモクセイは、麻生原の馬頭観音堂の境内にあり、昭和9年12月に国の天然記念物に指定されました。町木にも指定されており、大きさは日本一ともいわれ、樹高約18メートルの周り約3メートル、地上から約4メートルのところで三支幹に分かれています。枝張りは、東北に約9メートル、西方と南方に約8メートル、北方は約11メートルに達しています。

天然記念物に指定された名称は「キンモクセイ」ですが、品種としては、九州に自生し、薄黄色でやさしい香りを放つ花を咲かせる「ウスギモクセイ」です。

秋の開花時期には、その豊かな香りが緑川の対岸にまで漂い、多くの見物客を集めます。

保存会の心尽くしの接待 で見物客をおもてなし

キンモクセイがある麻生原区（奥村大助区長50世帯）では、公民館活動の一環として「麻生原キンモクセイ保存会」を結成しています。



開花期間中には、訪れた見物客にゆつくり観賞してもらえるように、お茶や手作りの漬け物や煮物、饅頭などで心尽くしの接待をしています。接待の歴史は古く、保存会を結成する以前から行われており、同区の小组合ごとに接待する日程を割り当てて交代で担当し、キンモクセイを見に訪れる多くの見物客を、麻生原の秋の味覚で楽しませています。

今年も、10月2日(日)～9日

(日)に接待を催し、訪れた見物客におもてなしをしました。各地から約2,000人の見物客が訪れ、本町の誇る秋の風物詩を堪能しました。開花時期には、キンモクセイの案内人として、訪れた見物客に由来や歴史などを説明する、町文化財保護委員長の久米壮亞さんは「今年は、夏の厳しい暑さなどの影響を大きく受けることなく、例年以上に満開の花が咲きました。ここ数年、木の活力を活性化するために、樹木医などに処置を施してもらっている状況です。大切な町の財産ですから、もっと多くの皆さんに見に来ていただきたいです」と話しました。

熊本市から来た60代の女性は、「そろそろキンモクセイが開花する時期ではないかと思って、友だちを誘って見に来ました。小さな花が、かわいくてきれいですね。毎年、花と接待を楽しみにして訪れています」と話しました。